

自然のことを分かり易く伝える

インタープリターとインタープリテーション

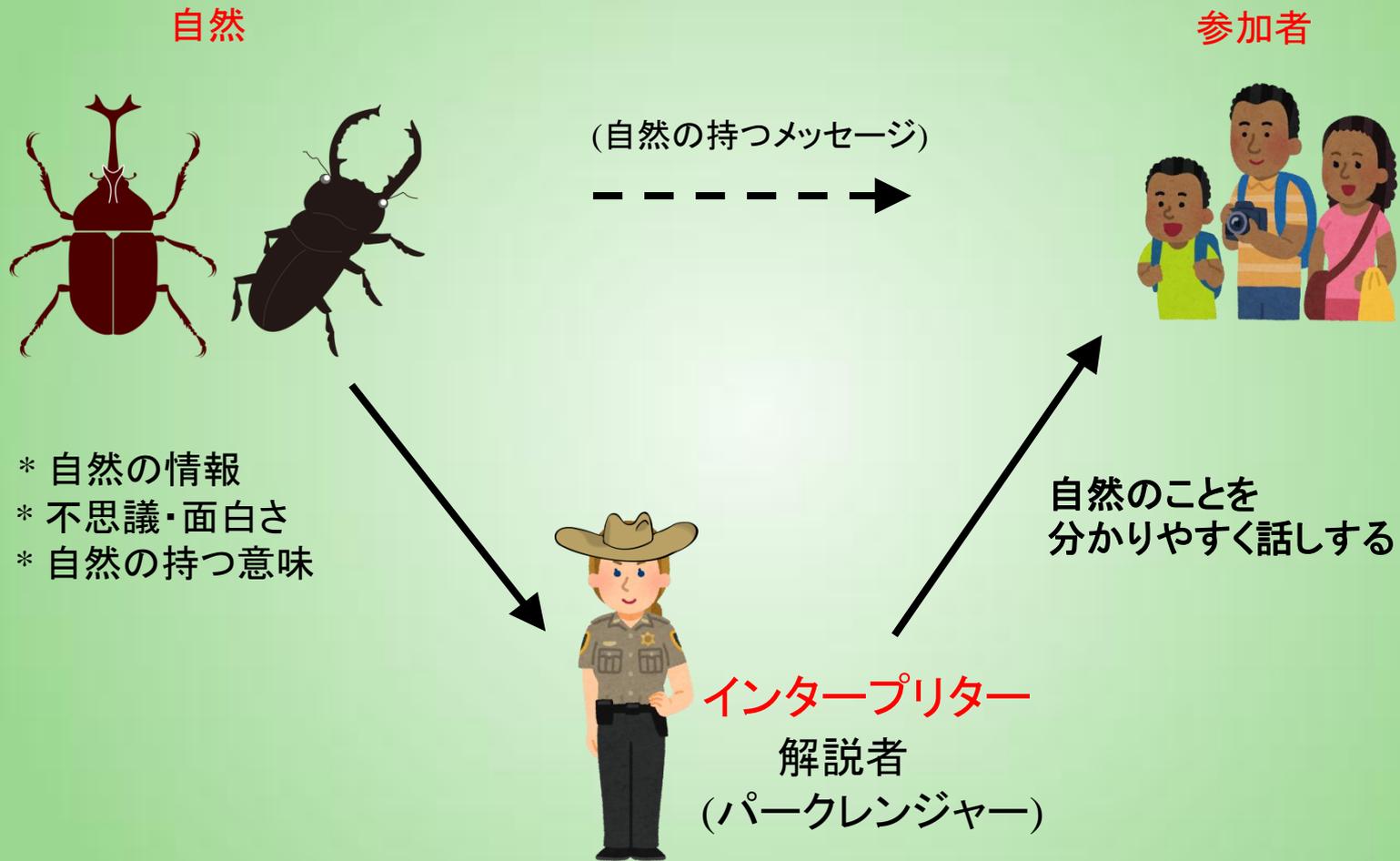
2022パークレンジャー養成講座

2022/5/15

NPO法人日本パークレンジャー協会

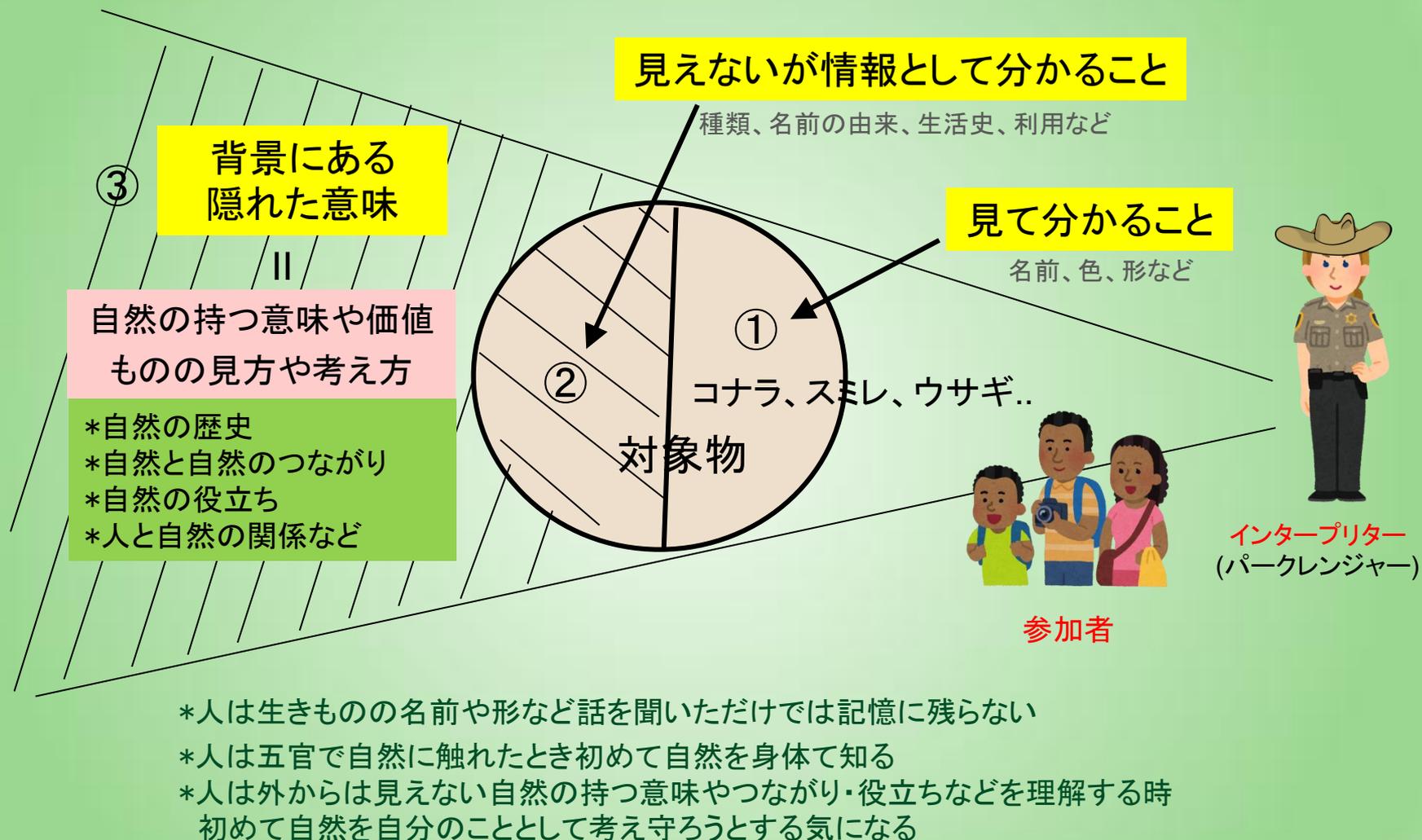


1. インタープリターとインタープリテーション



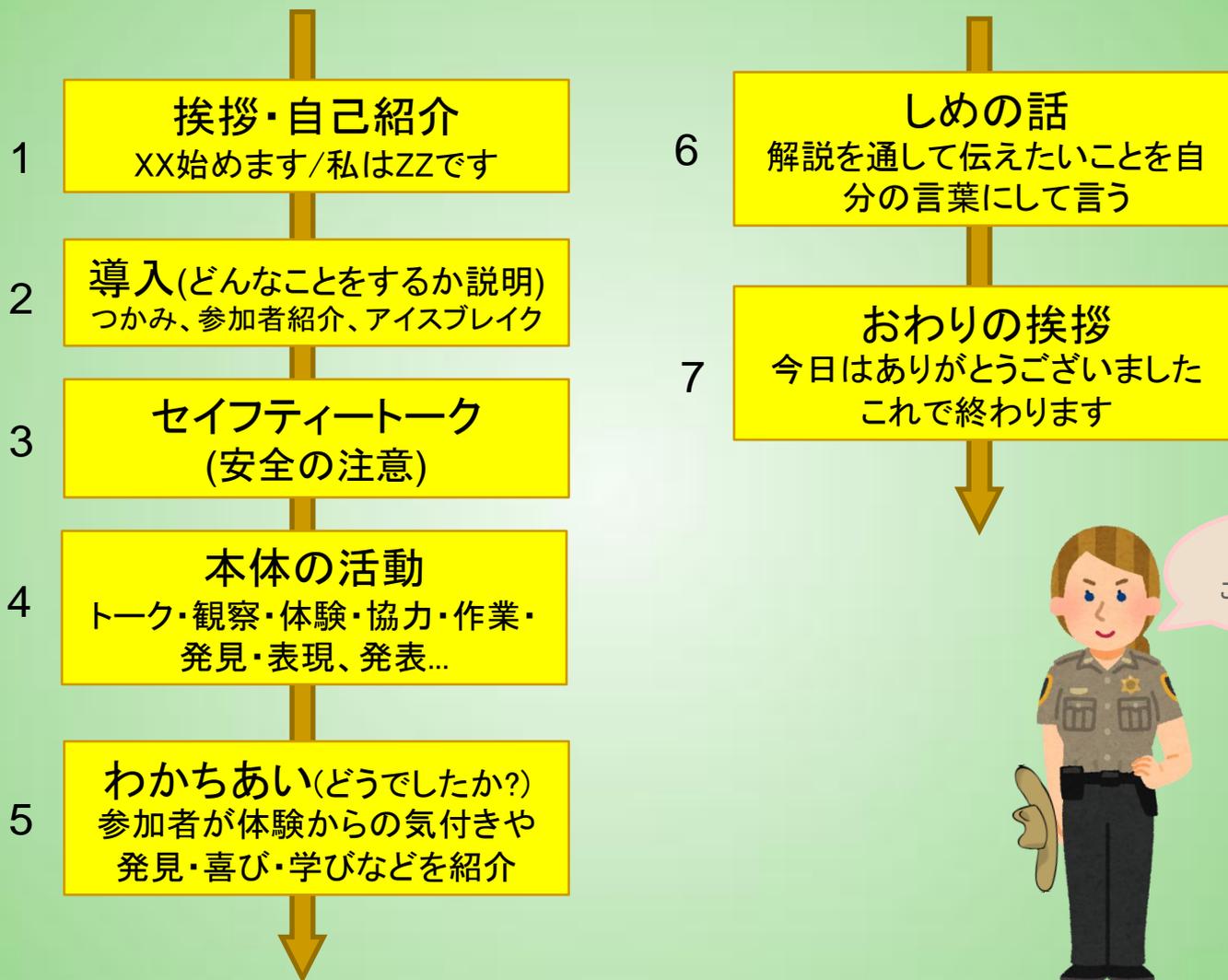
インタープリテーション = 自然のことを分かりやすく伝える

2. 伝えたいことは?



伝えたいことは生きものの名前や種類のことではなく、自然の持つ意味や価値

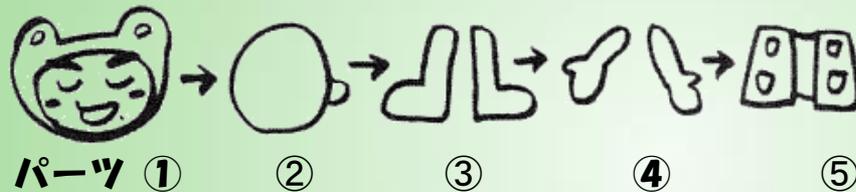
3. インタープリテーション(自然解説)の流れ(プログラム)



4. プログラムデザイン

アクティビティやインタープリテーションを何のために、どのように行うのか効果的に話を伝えるための全体のストーリーを作ること

活動要素=アクティビティ



プログラム



完成品

図は菊間 章著「もう一度会いたいと思われる人になる」より引用補足

プログラム例:

- * プログラム -- 「葉っぱじゃんけん」
- * 概要 -- 葉っぱには色々な形や色があること、他の生きものと関係していることを解説
- * アクティビティ -- 色々な葉っぱを集めてその形や色などのお題でじゃんけんをして遊ぶ
- * コンセプト(伝えたいこと) -- 色々な葉っぱに触れ自然の多様性や自然と自然のつながりを知る

5. 色々な伝え方

- **話す**: 言葉で説明する
- **見せる**: 現物を見る (写真・紙芝居なども)
- **質問する**: 問いかけをして考えてもらう(双方向で話をする) / クイズ
- **体験する** : 五感で実際に感じる (見る・聞く・匂う・味わう・触る)
- **野外ゲーム**: 自然のことをゲームを通して伝える
- **自分で考えて行動してもらう**: 参加者主体

大切なこと:

*子どもには子どもの話し方をする(専門用語は使わない)

*相手(特に子ども)の発見に共感する “**すごいね! 良く見つけたね!**”

相手に伝わるように話をするには

- ① 何について話をしているのか明確にする
- ② 相手に分かる言葉で話す
- ③ 話の筋が通るように話す

6. 伝わるインタープリテーションをするための10箇条

- 案内するのは一人で10人くらいまでにする
- みんなに聞こえるように話す
- 移動中は話をしない(移動とインタープリテーションを分ける)
- 全員が集まってから話す(行き過ぎて戻る)
- 拡声器は使わない(拡声器は人の心にとどかない)
- 子どもにはわかるような言葉で話す(専門用語は使わない)
- 解説は相手の興味や関心に合わせる(人数、年齢、男女比...)
- 話は短くする(あれもこれも話さない)
- 解説を通じて伝えたいことを自分の言葉で話す
- 最後に締めの言葉を言う

7. ふり返り

終わったらプログラムをふり返って「良かったと思うところ」、「うまくできなかったと感じるところ」、「その他気づいたこと」を検証して次回につなげる
皆が同じ視点でふり返りができるようにふり返りシートを用いると良い

- *ふり返りは反省会ではないので、できなかったことをダメだしする場にしない
- *言う方も聞く方も素直な気持ちで次回にどう生かすのかをしっかり共有して短時間で終わるようにする

フィードバックの五箇条:

- ① 先ず良かったところをほめる
- ② 次に気になったところを言う
- ③ 抽象的ではなく具体的な話をする
- ④ 「何々すべきだ」ではなく「私はこう思う」と言う提案をする
- ⑤ 人の話を聞くときは謙虚に聞く